

# 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 高須 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、英語)の結果

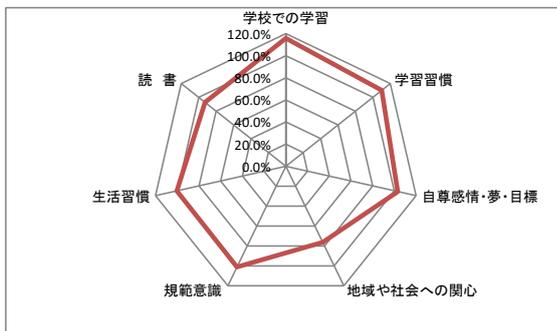
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	自分が気に入った短歌を選び、根拠を明らかにして自分の考えを書く問題が全国平均を下回った。また、手紙の書き方といった常識(知識)問題での正答率も良くなく、知識を補充しながら、根拠をもって意見を書く授業を充実させていきたい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	資料を読み取り、そこに書かれている情報を用いて、適切な説明をする問題	
	努力が必要な問題	話し合いの際に適切な発言をする問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回ったが、領域別では「資料の活用」の問題は正答率が全国平均を上回った。全体的にどの問題も無解答率は全国平均と同程度であったが、正答率が全国平均よりも下回っているため、今後は1・2年生の復習を行いながら、学習を進めていく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	資料の活用における最頻値の求め方やどのような代表値を用いるべきかの判断を問う問題	
	努力が必要な問題	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題や与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を問う問題	
英語	全体的な傾向や特徴など	聞くこと、読むことの2領域では、全国平均と同程度の正答率であったが、書くことの領域では、下回った。授業でスピーチやプレゼンテーションなどを発表する機会や、自分の考えや気持ちを英語で書く活動が不十分であったので、そのような活動を充実させていきたい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取る問題	
	努力が必要な問題	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習は定着してきており、1日1時間以上の家庭学習に取り組む生徒は7割を超え、1学期末の学校独自のアンケートでも8割に近づきつつある。</li> <li>・自尊感情が高い生徒や人に役に立つ人間になりたいと思っている生徒の割合は全国平均を大きく上回っているが、将来への夢や目標を持つ生徒の割合が低いので、具体的な目標設定を行い、進路実現のためのキャリア教育を行うとともに、自身の行動に結びつけていかなければならない。</li> <li>・地域の行事に参加する生徒や地域や社会で起こっていることに興味を持っている生徒の割合が極端に低いのが課題である。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

今後もめあてとまとめの整合性が図られた授業を実施する。学習した内容を実生活に結び付け、それを活用する力を高めるための教材作り、深い学びにつなげる意義のある話し合いの時間を充実させる。学校全体で授業改善を推進し、授業力の向上を図る。また、子ども読書の日や日常の朝読書を充実させ、読書の必要性を感じる機会を多く与えていきたい。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

地域清掃やボランティア、部活動の地域行事への積極的な参加などを推進し、SDGsの視点を踏まえてシビックプライドを醸成していく。定期的な生活アンケートを実施して、生徒の生活習慣を把握した上で、教育相談や保護者懇談会を実施する。